

平成28年度 木曾三川下流地区広域観光連携協議会

桑名住吉地区社会実験 報告書



平成 28 年 9 月

木曾三川下流地区広域観光連携協議会 事務局

案

木曾三川下流地区広域観光連携協議会 桑名住吉地区社会実験

「伊勢大橋・住吉入江サマーナイトクルーズ」

「クワナ・レンガ・アオゾラシアター」

「桑名住吉ミズベバル」

(併催 防災フェア桑名 2016「住吉サテライト」)

開催日時：平成 28 年 7 月 23 日 (土) 18:00～20:00 過ぎ

開催目的：桑名を代表する水辺空間である住吉入江については、周辺事業者や観光、まちづくり関係者からの水辺空間活用に関する様々な提案がされている。水辺空間の活用可能性についての基礎データを得るとともに、関係する公共空間管理者や占用手続等について情報共有する機会とする。今回は、その提案の中から夕暮れ時における社会実験を行うものである。

開催内容：

1. 伊勢大橋・住吉入江サマーナイトクルーズ

「伊勢大橋トワイライトクルーズ」「ライトアップ住吉入江納涼クルーズ」

- ・夏の夕暮れ、短距離の舟運についての社会実験を行い、揖斐川伊勢大橋上流へ航行して伊勢大橋の造形感、構造や煉瓦蔵のライトアップ景観を楽しむ
- ・図書館を使った調べる学習コンクール 最優秀賞・地域賞「消えゆく風景・伊勢大橋～ぼくが撮った 1 枚の写真から～」加藤颯真さんによる船内での解説により、伊勢大橋の歴史について学ぶ

2. クワナ・レンガ・アオゾラシアター

- ・(公益社団法人)諸戸財団の諸戸氏庭園にて、桑名の古写真を煉瓦蔵ファサードにスライド上映して、住吉入江、煉瓦蔵の持つ情感、心癒される水辺空間を味わう。
- ・公益財団法人諸戸財団からは「諸戸氏庭園古写真」、桑名市中央図書館から「昭和の記憶」に所蔵されている写真と挿入スライドを作成頂きました。

3. 桑名住吉ミズベバル

- ・公共空間活用方策の検討に資するため、防災船着場周辺で揖斐川のダイナミックな水辺景観を望むオープンカフェを桑名市観光協会、桑名商工会議所により催行する。

1. 伊勢大橋・住吉入江サマーナイトクルーズ

伊勢大橋や住吉入江の夕景を楽しむとともに、社会資本整備の重要性を理解してもらうため、伊勢大橋・住吉入江サマーナイトクルーズを実施しました。

伊勢大橋トワイライトクルーズは4便、ライトアップ住吉入江納涼クルーズは10便が運航され、合わせて184名（伊勢大橋クルーズ115名、住吉入江クルーズ69名）が乗船しました。

伊勢大橋トワイライトクルーズは、東部商研・くわなリバークルーズ株式会社にご協力頂き、トロワ・リヴェール号により運航を行いました。

トロワ・リヴェール号は、平成4年6月に進水した遊覧船で、船名はフランス語で「三川」を意味しています。25馬力の2機掛エンジンを搭載し、最高速度7ノット（約13km/h）、最大搭乗人員55名で、客室定員44名、2階展望台定員15名となっています。

運航ルートは、住吉水門を出て揖斐川を上流側へ向かい、伊勢大橋を見学後、伊勢大橋上流でUターンして揖斐川を下り防災棧橋へ戻るもので、18時より30分間隔で4便の運行を行いました。乗船者数は第1便に26名、第2便に31名、第3便に28名、第4便に30名、合計115名となりました。





ライトアップ住吉入江納涼クルーズは桑名城お堀めぐり実行委員会の長谷川さん、平井さんにご協力頂き、2隻の船で運航を行いました。

運行ルートは、住吉入江を往復した後、住吉水門を出て七里の渡しを回り、帰港するもので、18時過ぎより20時過ぎまでの間で10便の運航を行いました。

1便目は乗船人数が1名でしたが、2便目以降は伊勢大橋クルーズを降りた人が乗船し、賑わいを見せました。



船の乗り降りは、住吉入江の防災棧橋で行いました。歩道橋として利用されている新住吉橋の通行止め予告、棧橋利用手続きは、桑名城お堀めぐり実行委員会に実施して頂きました。

乗船者の受付は、防災棧橋入口で行いました。事前申し込み者の名簿と照合することにより乗船者を確認した後、船内説明資料を配布し、乗船して頂きました。また、当日キャンセルが出たため、キャンセル分については当日受付により乗船できるよう対応しました。

受付にあたっては、船名と船便を記載した案内板を掲示して該当する便の受付を順次行うようにしましたが、2系統をひとつの棧橋で受け付けたことにより、お客さんが集中することもあったため、途中より受付を2系統に分けることで対応しました。



伊勢大橋トワイライトクルーズは、定員が限られていることから事前登録制として、参加募集チラシを作成しました。地元学区の桑名市立精義小学校、同立教小学校と、隣接する修徳小学校の連合自治会長にご協力を頂いて、133自治会 603班への自治会回覧を行うとともに、各小学校の1～6年生の全校児童合わせて641名にチラシの配布を行いました。そのほか私立津田学園小学校（昨年の木曾三川船上教室参加）の児童にもチラシを配布しました。

事前申し込みはWEB及びFAXで受け付け、36組93名（うち、FAXでの申込7組16名）の方から申し込みを頂きました。

伊勢大橋トワイライトクルーズの船内では、昨年度、桑名市図書館を使った調べる学習コンクールで「最優秀賞・地域賞」を受賞した加藤颯真さん（桑名市立光陵中学校1年）に、伊勢大橋の話をしてもらいました。

これまでも船上教室などで小学生等を対象とした土木インフラの視察会等を開催したことがありますが、大人からの説明では子供たちの興味を惹きつけることが

なかなか難しいことがわかりました。当時小学6年生の加藤さんがまとめた「消えゆく風景・伊勢大橋～ぼくが撮った一枚の写真から～」は、土木インフラについて調べた唯一の事例であり、しかも最優秀賞を受けていたこと、また年齢も近いことから、タイアップして説明をお願いし、引き受けて頂いたものです。

加藤さんには、①あいさつ、自己紹介、②伊勢大橋について（完成年・長さなど、設計者・増田淳について、増田淳設計の近くの橋、今も残る弾痕について）、③「調べる学習」の魅力、④終わりのあいさつ、という流れを順序良く説明するための写真パネル（渡り初めの時や、当時の伊勢大橋の写真など）と台本を事前に用意してくださり、時には伊勢大橋に関するクイズ（Q、伊勢大橋は、完成当時「東洋一の長橋」と呼ばれていましたが、現在は日本で何番目でしょう？等）を交えながら小学生にも解りやすく、楽しく説明してくださいました。

船内での説明時間は往路の約10分間とし、復路は参加者が船上デッキに上って、夕景・夜景を楽しんで頂けるようご案内しました。

説明にあたっては船内説明用のチラシを作成、配布しました。乗船した親子が熱心に話を聞いていました。

また、自作の伊勢大橋の模型を使用した説明も行われ、乗船者から感嘆の声があまり好評でした。



加藤さんには、クルーズ4便すべてに乗船し、説明して頂いたため、約2時間の船中滞在が必要となりました。事前に軽食の用意と船内トイレの位置の確認、エアコンの調節、また説明のサポートをする等、できるだけ加藤さんの負担と緊張を軽減できるよう心がけました。

加藤さんはかなり緊張していましたが、2便以降は徐々に緊張も解け、段取り良く、落ち着いて説明されていました。貴重な体験が出来て満足しているようでした。

下船時には謝礼として図書カードをお渡ししました。

乗船時のライフジャケット着用はもちろんのこと、夕刻の水辺での子ども向けイ

ベントであることから、子どもたちに水辺でのライフジャケット着用を意識してもらうため、募集チラシでもライフジャケット持参を呼びかけました。河川財団名古屋事務所に協力を頂いて、ライフジャケット（大人用 33 着、子供用 33 着）を準備し、持参していない方には貸出しを行い、81 名に貸し出しました。

ライフジャケットの貸出は、六華苑〔(一財) 桑名市文化・スポーツ振興公社〕の中澤苑長にご協力頂いて、桑名市住吉浦休憩施設の開場時間を延長して頂くとともに、川本副苑長、石崎さんにライフジャケット貸し出しをお手伝い頂きました。貸出を休憩所内のみで行ったため、かさばるライフジャケットを多数置く場所が必要となり、返却や貸出作業が集中して混雑して、お客様を待たせたり、乗船寸前で貸出し希望となり、お客様が乗船場所に走って移動することもありました。

大変な作業でしたが返却に来られたお客様から「とても楽しかった」、「また機会があれば乗りたい」との声がとてもありがたかったです。

桑名市住吉浦休憩施設の休憩所内では借主の確認と貸出しを受け付ける作業のみを行なって、ライフジャケットの受け渡しは正面の駐車場など屋外で行うなどのスムーズな貸出についての検討不足でご迷惑を掛けました。



伊勢大橋トワイライトクルーズ運航後、撮影のため住吉入江を航行しました。
住吉入江でのトロワ・リヴェール号の航行は、今回が二度目とのことで少し緊張
しましたが、特に問題なく航行できました。

トロワ・リヴェール号の背景にライトアップした煉瓦蔵が映える夜景は、見応え
がありました。



2. クワナ・レンガ・アオゾラシアター

諸戸氏庭園の煉瓦蔵ファサード壁面に布を張り、煉瓦蔵が活用されていた昭和初期の写真 70 枚をスライド投影して、桑名を支えてきた人々のいきいきとした暮らしに思いをはせることができました。

また煉瓦蔵のファサードをライトアップして、普段は見られない夕闇に浮かぶ景観と合わせて古写真の情感をさらに深めることが出来ました。

クワナ・レンガ・アオゾラシアターで用いるスライドは、公益財団法人諸戸財団から「諸戸氏庭園古写真」、桑名市中央図書館から「昭和の記憶」として、所蔵されている昭和初期を中心とした写真を用いました。

「昭和の記憶」の中から選んだ写真をベースに挿入スライドを加えて、「諸戸氏庭園古写真」も同一の様式に整えて、映写順序や全体イメージは、桑名市立中央図書館司書の松永さんに作成して頂きました。

「伊勢大橋」、「住吉入江」、「八間通」、「石取祭」、「諸戸氏庭園」の五つのテーマに分けて、伊勢大橋を渡る人々の喜び、当時は五連棟であった煉瓦蔵、立派な御屋敷、水面を埋める多くの木材、入江沿いの道に佇む祭車と人々、撮影当時の風物や佇まい、被写体の様子がわかりやすくまとめられました。単に写真のみの映写ではなく、観覧者のイマジネーションを掻き立てる仕上がりになりました。

投影に使用するプロジェクターは、桑名市上下水道部施設課に仮設及び電源使用の申請を行なって、煉瓦蔵の南面道路を挟んで隣接する桑名市住吉ポンプ場のフェンス上に仮設しました。

スクリーンとなる布 4.2m×3.2mは、煉瓦蔵の壁面にある金具を利用してロープで吊り下げることが出来ました。煉瓦蔵の庇（現在は無い）の部材「垂木掛け」を固定していた鋼製金具と思われ、事前調査でも安定錆が出て腐食も少なく、現在も十分な強度、吊り下げ重量にも対応できることがわかりました。

スクリーンの上部は長さ 5 m の竹材（3～4 cm 径）を用いて、下部は石材ブロックを錘として展開しました。夜風をはらんで皺になったり、ピンと張れていませんでしたが、デジタルサイネージに慣れた我々の世代にとっては、最新のスクリーンやプロジェクションマッピングよりも、煉瓦蔵のもつ雰囲気にもマッチしていました。

電源は住吉ポンプ場の外部コンセントからケーブルリール 30 m を 2 巻用いて約 50 m 電源を取り、結束バンド 4 本でフェンス上に固定した補助板 1.2m×0.7 m の上に、荷造りストラップベルト 2.5m 1 本で固定したプロジェクターとパソコンを載せて、壁面にスライドを投影しました。

輝度 4,200 ルーメン、歪み補正機能付きのプロジェクターを使用しましたが、周

辺の暗さから見て、3,000ルーメン程度の性能があれば鑑賞には差し支えないことが確認できました。



三棟が連棟で建つ「煉瓦蔵」のファサードには、それぞれ観音開きの鋼製の扉が中央に設置されており、それぞれのポーチ部は石材の階段があり、基礎フーチングから連続するようにレンガと石材で舗装されたテラス部、幅約2.4mほどがあり、アクセントとなっています。

今回は、そのファサードのテラス部に、ザ フナツヤの応接ロビーで使用しているテーブルと椅子を借景として配置してもらいました。

ローテーブル2脚とローチェアー8脚を



ザ フナツヤの小林さんほかの従業員で店舗から代車で運搬して頂きました。煉瓦と石材の壁面とマッチした空間が演出できました。

煉瓦をモルタルで固めて、石材で囲んだ形状となっているテラス部の舗装は、煉瓦部分が風化して、モルタル目地が格子枠状に浮き出て、凸凹になっているため、タイルカーペットを敷いて不陸を抑えましたが、景観との調和を考えると、さらに改善が必要なポイントであると思いました。

煉瓦蔵前の道路上には、長島町輪中の郷から借用したプラスチック製ガーデンチェアとテーブルを3セット設置しました。

設置と搬入撤去は、桑名市観光協会青年部の協力で実施しました。

入江を渡る風が心地よく夕涼みしながら、思い思いに飲食しながら、スライド映像を楽しめる、心地よい公共空間になりました。

今回の社会実験で、公共空間の活用可能性、オープンカフェなどのポテンシャルがあることが充分証明されました。

今後、木曾三川公園、諸戸氏庭園の施設整備や入江周辺の商業開発の設計においては、トイレやユーティリティスペースを提供することが出来ることが、公共空間の活用促進に不可欠であると思われました。





テーブルの上には、スライド内容を補足するためのフォトブックを配置しました。フォトブックは、スライド映写した写真のうち、「諸戸氏庭園古写真」から 10 枚、桑名市中央図書館「昭和の記憶」から 13 枚を抽出して、桑名市立中央図書館司書の松永さんに作成して頂きました。

映写したスライドを見ながら、フォトブックを熱心に眺める参加者の姿も見られました。



煉瓦蔵は、500Wの防雨型のハロゲンライト4台を用いてライトアップを行いました。自然色で景観面から良い雰囲気を得られる電球はタングステンタイプを使用し、煉瓦蔵ファサードのテラス部に、壁面から約2m離し、煉瓦蔵の両端に2台、その間は等間隔になるように2台配置し、スクリーンに直接光が当たらないよう約45度の角度で煉瓦蔵に向けてライトを当てました。ライトの電源は、公益財団法人諸戸財団にご協力頂き、諸戸氏庭園内の作業小屋の外部電源から、ケーブルリール30mを1巻用いて電源を取りました。

道路使用・道路占用許可申請にあたっては、桑名市商工観光課の松井さんに申請の手続きを指導頂き、催事主催者を代表して桑名市観光協会会長及び桑名商工会議所会頭の連名で提出されました。桑名警察署への提出は、東部商研（とらや饅頭）の安達さんに協力頂きました。

催事1週間前には通行止め予告看板を道路に設置するとともに、駐車車両に対して通行止め予告チラシをワイパーの間に挟むことにより配布しました。



3. 桑名住吉ミズベバル

堤防上の空間を利用して、桑名市観光協会等により食べ物、飲み物のショップ・キッチンカーが設置され、物販が行われました。

水辺のテラスにはテーブル・椅子を設置し、揖斐川の景観を眺めながら飲食を楽しむオープンカフェとして活用しました。

ショップ・キッチンカーでは、桑名市観光協会や東部商研（とらや饅頭さん）、レストラン Rocca さんがテント4張り、カフェレスト白馬さんがキッチンカー1台を設置し、かき氷やみたらし団子、焼きそば等の食べ物やジュース、ビール、ハイボール等の飲み物の販売を行いました。

テントの設置は、桑名市観光協会青年部の協力で行いました。



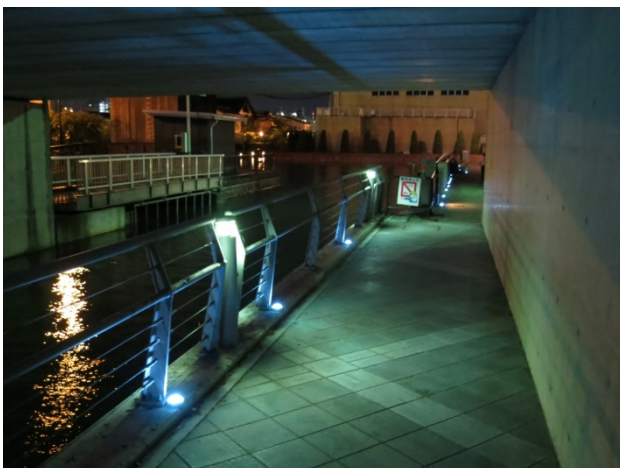
水辺のカフェでは、長島町輪中の郷から借用したプラスチック製ガーデンチェアとテーブルを7セット設置しました。設置と搬入撤去は、桑名市観光協会青年部の協力で実施しました。

ショップ・キッチンカーで購入した飲食物を持ち込み、オープンカフェとして揖斐川の景観を望みながら飲食を楽しめる空間として活用ができました。

堤防上の河川敷地使用申請にあたっては、桑名市商工観光課の松井さんに書類の作成及び申請の手続きのご協力頂き、桑名市観光協会会長及び桑名商工会議所会頭の連名により提出されました。



階段護岸や通路には10cm程度の乾電池式のLEDライトを設置し、誘導灯などとして活用しました。LEDライトは、お堀めぐり実行委員会より借用しました。



あとがき

夕刻から夜間にかけて、住吉入江周辺におけるイブニングクルーズとしての舟運事業の可能性、諸戸氏庭園の煉瓦蔵の活用可能性、堤防上の空間を活用したオープンカフェの可能性について把握するとともに、各種手続きの一元化を進めるための試行として社会実験を行いました。

イブニングクルーズは、乗船されたお客さんからの反応も好評であり、今後の事業化に向けて期待できるものと考えられます。多くの乗船客が棧橋やライフジャケットレンタルに集中することになるので、船の運航管理や受付の方法の改善が今後の課題として挙げられます。

煉瓦蔵は、ライトアップやレンガシアターとして、飲食しながら鑑賞する空間として、今後のさらなる活用が期待できるものと考えられます。

堤防上のオープンカフェは、揖斐川の景観を眺めながら飲食できる空間として活用が期待できます。しかし、今回の催事開催にあたっては、各種申請手続き等の一元化を図ることは達成できなかったため、今後の課題として挙げられます。

開催に際しては、桑名市観光協会、桑名商工会議所、（公財）諸戸財団、六華苑〔（一財）桑名市文化・スポーツ振興公社〕、桑名城お堀めぐり実行委員会、桑名歴史案内人の会、HEY総合研究所、くわなりパーククルーズ株式会社、東部商研、桑名市関係部局のご協力のもと、意図した以上に盛会となりましたこと御礼申し上げます。

参加された皆様のお心かげにより好天に恵まれ、大過なく運営できましたこと、心より感謝申し上げます。

それぞれの組織からの持ち寄りでの運営で、至らない点も多かったことと思いますが、事情ご賢察頂きまして、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。引き続き、木曾三川下流地区の広域観光連携にご支援ご協力を賜りますようどうぞよろしく申し上げます。

平成28年9月吉日

木曾三川下流地区広域観光連携協議会 事務局

桑名市 都市整備部 都市管理課

国土交通省 木曾川下流河川事務所 河川公園課